放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 3 月 1 日　　　　事業所名　はるにれ園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	グループ編成をし、少人数で過ごしている。	今後も、子どもたちが活動にじっくり取り組めるよう、グループ等の調整をしながら過ごす。
	2	職員の配置数は適切である	60%	40%	臨機応変に対応出来るよう、職員間で情報共有を密にしている。	送迎欠員対応として次年度は法人間での対応で進めている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	めろんやぶどうなど、場所を分かりやすく工夫している。バリアフリーに関しては、スロープが準備してある為、必要に応じて玄関などの段差へ設置可能になっている。	今後、様々なお子さんに対応出来るよう、更に環境設備等の検討を重ねていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	80%	20%	職員会議を密にする事で、日々の業務改善に取り組んでいる。	日々の療育の振り返りや業務改善に、更に全職員で取り組めるよう努めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	行事時のアンケートや評価表を活用し、ご意見の把握に努めている。	今度もアンケートや評価表を活用し、ご意見等の把握に努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページ等で公表している。	公表方法について全職員で周知し、今後の療育に活かしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60%	40%	支援の振り返りを日々行いながら、業務改善に繋げている。	今後第三者の外部評価を検討し、より良い療育を目指していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	様々な研修に参加し職員に水平展開している。	今後、更にそれぞれの職員が積極的に様々な研修に参加出来るよう、計画・実施していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	保護者様から聞き取りを行いながら、支援計画の作成をしている。	引き続き、更新時期を中心に聞き取りやアセスメントを行い、お子さんと保護者の方々に寄り添い、より良い療育を提供出来るよう計画を作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	病院からなどの発達検査・知能検査は参考になると思う。アセスメントの書式を作成し、誰がアセスメントをしてもポイントにずれがないよう工夫した。	今後もアセスメントツールを活用しながら、療育の中で行動分析等をし、繋がりある支援を行っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%	ベースとなる活動プログラムから、日々の活動内容を立案している。	各グループのリーダーが中心となり、検討・実行する事で、子どもたちが楽しめるプログラムを提供出来るよう努めていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	日々のお子さんの様子を確認しながら、検討している。	今後もベースとなる活動プログラムを基に、日々のお子さんの様子を確認しながら、楽しめる活動を提供していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%	お子さんの様子を把握しながら、支援をしている。	土曜療育や平日療育の課題を、今後改めて明確化し、支援内容の検討に努めていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	お子さんに必要な活動内容を検討し、計画書作成している。	引き続き、それぞれのお子さんに必要な支援を職員会議で確認し、計画書を作成していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝・昼の時間に職員会議の時間を設けている。	引き続き、朝・昼の職員会議の中で、午前・午後の支援内容や役割分担について、話し合いを行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有している	100%	0%	同上	今後も、療育の振り返りを全職員で行い、次回の支援に繋げていけるよう努める。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	支援記録を活用し、支援の検証・改善をしている。	支援記録を基に、今後の支援について検討し、より良い療育を提供出来るよう努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	計画更新時期を中心に、職員会議を行い検討している。	今後も継続して、職員会議をする事で一人ひとりの計画書を作成出来るよう、努めていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	80%	20%	基本活動を組み合わせ、その子に合った支援を行っている。	職員間で基本活動の理解を深め、今後の支援に繋げていく。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80%	20%	療育担当者が、主に参加させて頂いている。	今後も職員間で担当者会議の理解を深め、検討しながら参加させて頂く。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	80%	20%	相談支援専門員を中心に、情報共有を行っている。	今後も保護者様や相談支援専門員を中心に、学校や各事業所との連携に努め、積極的に情報共有をしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	60%	40%	協力医療機関の設定をしている	今後必要に応じて、検討していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	60%	40%	サービス担当者会議を中心に、情報共有をしている。	今後も情報共有・相互理解に繋げられるよう、積極的にサービス担当者会議等に参加させて頂き、風通しの良い施設を目指します。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	60%	40%	相談支援専門員を中心に、情報共有を行っている。	今後も必要に応じて、情報提供が出来るよう努めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%	センターとの繋がりが、十分でない現状がある。	今後、専門機関との連携を積極的に行う事で、研修参加や助言等を頂ける関係性を築いていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	60%	40%	送迎時、児童クラブの先生との関係を密にしている。	今後は、積極的に他機関と交流が持てるよう、関係機関との繋がりを増やしていく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	60%	40%	子ども部会や事業所部会へ、参加している。	今後も積極的に参加し、職員間で情報共有を行い、知識を深めていけるよう努める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡ノートや口頭にて、保護者様との関わりを設けている。	今後も連絡ノートの活用や登降園時・事業所内相談を利用し、相談しやすい関係性を築いていけるよう、全職員努めていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	80%	20%	保護者様同士のお茶会や、保護者様向けの研修会等を行っている。	保護者会等でペアレント・トレーニングを支援していき、支援体制を充実していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	80%	20%	契約時や日々の療育の中で、丁寧な説明を心がけている。	職員間で情報の共有を行いながら、丁寧な説明に努めていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80%	20%	保護者様の相談を職員間で検討し、支援している。	今後も必要に応じて、全職員で検討しながら支援する事で、保護者様に寄り添った丁寧な支援を提供出来るよう努めていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	80%	20%	保護者会を行う事で、保護者様同士の繋がりを作る事が出来た。	今後も感染症対策を十分に取りながら、積極的に保護者様同士の交流出来る場を設けていけるよう、検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	80%	20%	苦情担当者が中心となり、対応出来る体制を整えていく。	苦情対策チームの明確化をし、指針を保護者に周知し迅速かつ丁寧に対応出来るよう努めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	お便り発行や、HPの発信を行っている。	今後も定期的にお便り発行やHPを更新する事で、保護者様の安心へと繋げていく。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報の施錠、個人情報取り扱いの確認を毎年行っている。	今後も、個人情報取り扱いの確認や個人情報や記録等の管理を徹底致します。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	80%	20%	連絡ノートや口頭にて、保護者様との関わりを設けています。	引き続き、連絡ノートや口頭でのやり取りを中心に、多様に対応出来るよう努めていきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	40%	60%	感染症拡大予防の為、招待等を行えなかった。	今後、積極的に地域の皆様と交流が持てるよう行事参加を促し、開かれた事業運営を目指す。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	60%	40%	それぞれのマニュアルを策定し、掲載していいる。	今後、お便りや掲示板を使用しながら、分かりやすく周知出来るよう検討していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%	年間行事で予定している、避難訓練等を実行している。	今後も、避難訓練等にしっかり取り組み、命守る対応を子どもたちと一緒に身に付けていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80%	20%	虐待防止研修に、参加している。	今後も研修会に積極的に参加し、職員間で共通理解に繋げていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	60%	40%	支援手順書を作成する事で、身体拘束せずに過ごせる方法を検討している。	今後も、必要に応じて支援手順書を作成し、保護者様に分かりやすく説明し、共通理解を持って取り組めるよう努めていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%	アセスメントシートで把握対応している	必要に応じて丁寧に対応させて頂く。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	必要に応じて、速やかにヒヤリハットを作成し、共有している。	今後も必要に応じてヒヤリハットを作成し、全職員で共通理解を持ち、対策等に繋げていく。